



北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title 論文題目	北海道広尾町高齢者の痛みの特徴
Author(s) 著 者	坂口, 友康
Degree number 学位記番号	第 41 号
Degree name 学位の種別	修士 (医科学)
Issue Date 学位取得年月日	2016-03-31
Original Article 原著論文	
Doc URL	
DOI	
Resource Version	

「修士論文内容要旨」

報 告 番 号 第 39 号 氏 名 坂 口 友 康

． 修士論文題名「北海道広尾町高齢者の痛みの特徴」

【目的】

中核都市まで遠く理学療法士がいない広尾町において、理学療法の対象者の検討や対象者数の検討を行うこと、また、痛みが引き起こす日常生活活動（以下 ADL）制限と Quality of Life（以下 QOL）の関連性を検討することとした。

【方法】

平成 26 年 10 月～平成 27 年 2 月に北海道広尾町の 65～74 歳の全町民 1123 人にアンケート調査を実施し、同意の得られた 604 人（回収率 53. 8%，有効回答数 594）を対象とした。質問内容は、性別、年齢、現在治療中の病気、身長と体重、同居家族や身の回りの世話をしてくれる人等の家族状況、独立した生活に必要な活動能力の測定法として老研式活動能力指標、痛みの部位や強さ、痛みによる ADL 制限評価法で逆翻訳法により作成した日本語版 Pain Disability Questionnaire（以下 PDQ）、QOL 評価として SF-8 とした。痛みの有無に関連している因子を検討するために、痛みの有無を従属変数、性別、年齢、現在治療中の病気や怪我の有無、がんの有無、筋骨格の病気の有無、SF-8 の身体的健康感、精神的健康感をそれぞれ独立変数としロジスティック回帰分析を使用した。本研究は本学倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】

有効回答数 594 人（男性 251 人、女性 350 人、平均年齢 69.4 ± 3.0 歳）のうち、痛み有りは 451 人（76%）、痛み無しは 143 人（24%）であった。痛み有り群と比較して痛み無し群の SF-8 は有意に高かった（ $p < 0.05$ ）。痛みを有する人の PDQ と SF-8 では、中等度の相関が見られた（ $P < 0.05$ ）。膝に痛みを有する群の PDQ は腰に痛みを有する群と比較し、わずかに QOL の精神面への相関が高かった。多変量解析の結果、痛みがあることに関連する因子としては現在治療中の病気があることや筋骨格の病気があることが示された（ $p < 0.05$ ）。

【考察】

広尾町の高齢者は痛みを有しているが大半であり、痛みが有る人よりも痛みが無い人の方が高い QOL と考えられたため、痛みを持った理学療法対象者が多いと考えられる。また、痛

みによる ADL 制限は QOL と関連しており、痛みとともに生活への介入の必要性が考えられた。膝に痛みが有る人は腰に痛みが有る人と比較し、QOL の精神的側面との相関が高く、精神面への介入の必要性が考えられた。治療中の病気があることや筋骨格の病気があることと痛みが有ることが関連していたことから、疾病の予防の重要性が考えられた。

論文審査の要旨及び担当者

(平成 28 年 3 月 31 日授与)

報告番号	第 4 1 号	氏 名	坂口 友康
論文審査 担 当 者	主査 教授 森 満	副査 教授 山下 敏彦	
	副査 教授 石合 純夫		

論文題名	北海道広尾町高齢者の痛みの特徴
<p>北海道は高齢者単独世帯が多く、腰痛や関節痛の有症率が全国的に高くなっており、今後の北海道の高齢者の自立した生活を営むための対応が必要である。本研究は北海道広尾町の高齢者において痛みを有する人の人数、痛みの特徴や痛みと日常生活活動、健康関連の生活の質との関連に焦点を当て、広尾町の 65～74 歳の全町民に対し郵送法で自記式による調査を行った。その結果、痛みが有る人 449 人（75.6%）となり、痛みが有る人は無い人と比較し QOL が低くなった。また、痛みの有無と筋骨格の病気、痛みによる ADL と QOL に関連が見られた。痛みの部位としては腰と膝が多く、腰と膝に痛みが有る人は身体面だけではなく精神面にも関連が見られた。本研究によって北海道広尾町の高齢者は、痛みが有る人が多いこと、痛みが有ると QOL が低くなること、痛みと筋骨格の病気との関連していること、痛みによる ADL は身体面と精神面の両面で QOL と関連していることが明らかとなり、このような実態調査は、広尾町の高齢者に介入する際の貴重な情報であると考えられた。以上から、本研究は学位（医学修士）の授与に値するものと論文審査委員全員から評価された。</p>	